

第 13 回 「総合的な学習の時間」「総合的な探求の時間」の教育内容について考える。

武内 清

今の学習指導要領で重視されているアクティブラーニングや「主体的、対話的で深い学び」は、全ての教科で提唱されているものです。

とりわけ「総合的な学習の時間」（中学校）や「総合的な探求の時間」（2020 年度から、高等学校）が、一番実践しやすい時間（科目）だと思います。今回は、それに関して取り上げます。

「総合的な学習の時間、探求の時間」に関しては、教職科目の別の授業で取り上げられますが、ここでは、その教育内容（カリキュラム）や方法に関して注目して、学んでいただきたいと思います。

皆さんの身近な題材で学んでいただく為、皆さんと同じ世代の他の大学の教職科目の「総合的な学習の時間」を扱った授業の様子を見て、考えていただきます。

見ていただくのは、静岡県立大学「総合的な学習・探求の時間の教育・指導法」の 2021 年 9 月に行われた集中講義（遠隔方式）です。

担当は 馬居政幸・静岡大学名誉教授です。（授業の記録は、馬居教授の HP に掲載されており、その閲覧の許可を得ています）

HP <https://www.uer-labo.jp/>

馬居教授がすすめる教材の 1 部を読み、その受講学生が授業の成果としてグループ討議で作成した作品（総合的な学習に関連したテーマのもの）を見て、「総合的な学習・探求の時間」について学んで下さい。課題は、その感想です。（余裕のある方は、他の資料も見てください）。

まず、教材として、この授業では多数のものが提示されていますが、その中から 1 つだけ「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（中学校編）」の「はじめに」の文章を読んで下さい（下記、サイト）。

「総合的な学習の時間」の意義が、簡潔にまとめられています。（主な点を、最後に転載しました）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sougou/1300534.htm

次に静岡県立大学の学生たちのグループ学習の成果を見て下さい。3～4 人のグループで、テーマ決定から情報の蒐集、議論を経て、1 つの作品を作り上げています。

<https://www.uer-labo.jp/room/2021/12/18/2425>

実際、中学校や高校での「総合的な学習・探求的な時間」では、同じようなことを生徒にやらせるので、それを教職科目受講の大学生が、自分達でやってみたということだと思いま

す。(皆さんが、グループで作成するとなったら、どのようなものを作るか考えて下さい)

学生のグループ討議・作業の成果は、下記で見ることができます。

<https://www.uer-labo.jp/room/2021/12/18/2425>

(「学校と教師の可能性を求めて」の「4 2021 年度集中受講者の作品より」の「3 POWER POINTO の PDF 版」の「1 G~8 G」を見て下さい)

今回の課題は、静岡県立大学の学生の作成した「総合的学習の時間」のグループ作品(1 G~8G)を見ての感想です。

解答(コメント)は 200 字~1000 字程度で、KCN の「課題提出」を通して 送って下さい

参考

中学校「総合的な学習の時間」学習指導要領の要点部分

「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開(中学校編)」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sougou/1300534.htm

の、まえがきとはじめに(4~12 ページ)の要点部分の転載

「総合的な学習の時間は、変化の激しい社会に対応して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることなどをねらいとすることから、思考力・判断力・表現力等が求められる「知識基盤社会」の時代においてますます重要な役割を果たすものです。平成 20 年 3 月の学習指導要領の改訂においては、総合的な学習の時間の特質や目指すところを目標として示し、この時間において育成する生徒の資質や能力及び態度を明確にしました。」(まえがき)

「総合的な学習の時間は、平成 10 年の学習指導要領改訂で創設された新しい学習の時間である。そこでは、身の回りにある様々な問題状況について、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決していく生徒の姿が期待される。問題をよりよく解決するために、生徒は地域に出かけたり、様々な体験活動を行ったり、多くの人と出会ったりして学んでいく。

その中で生徒は、実際の社会や日常生活の中で活用できる能力を身に付けていく。また、環境の問題や福祉の問題など、解決が困難な現代社会の課題について真剣に考えていく。そして、自らの生活や行動などを振り返り、一人一人が自分の生き方を考えていく。これからの「知識基盤社会」においては、生徒が探究的に学ぶ総合的な学習の時間がますます重要なのである。また、総合的な学習の時間では、生徒の成長とともに、学校や教師、地域も変容する。「生徒」「教師・学校」「地域」の姿から改めて総合的な学習の時間の意味を考えてみよう」(8 ページ)(はじめに)